

住友化学 News Release

2018年5月31日

健康・農業関連事業研究所に新設した合成研究棟の稼働を開始 ～創薬、イノベーションの中心となるグローバル研究開発拠点～

住友化学は、6月1日、健康・農業関連事業研究所（兵庫県宝塚市）内に新設した合成研究棟「ケミストリーリサーチセンター（Chemistry Research Center）」（以下、「CRC」）の稼働を開始いたします。

CRCは、主に農薬や防疫薬のグローバルな研究開発のための創薬、イノベーション拠点として建設を決定したもので、2018年4月に竣工し、稼働開始に向けて準備を進めてきました。

CRCには、先進的なスペース設計を取り入れ、研究者間の活発なコミュニケーションと画期的なアイデアを創出できるような環境を整えています。また、これまで宝塚地区内外に分散していた新薬探索から工業化検討までの国内における有機合成研究機能をCRCに集約することで、新薬の発明や製品開発を加速させていく考えです。

住友化学は、高い成長が見込まれるライフサイエンスを重点分野の一つと位置付けています。健康・農業関連事業では、高い研究開発力を軸としてグローバルに事業展開を行っており、近年、CRCの他にも、ブラジルや米国において研究開発体制を拡充してきました。こうした基盤強化を通じて、イノベーションを生み出し、引き続き世界の食糧、健康・衛生、環境などの課題解決に貢献してまいります。

<Chemistry Research Center の概要>

所在地	兵庫県宝塚市高司 4-2-1
規模	地上 6 階建
構造	スチール構造、基礎免震
延床面積	約 10,000 m ²
稼働開始	2018年6月1日



以上

<CRC の先進的なデザインの多目的スペースやラウンジ>



<健康・農業関連事業のグローバル研究開発拠点一覧>

